



## スミレ(堇)

早春、山野や路傍の片隅に、スミレはひっそりと可憐な姿を現します。紫色の五弁の花は心持ちうつむき加減で、その風情がひかえめで精神的な奥ゆかしさを思わせます。

スミレという名前は、花の形状が大工道具の墨入れに似ていることからつけられたという説がありますが、力士の鬚すげにも似ていることから、「相撲取草」とも称されています。

日本には約60種が自生しており、虚飾もなく慎ましく咲く姿は、野に到来した春を告げる花として万葉の昔から親しまれています。

「春の野にすみれ摘みにと来しわれそ

野をなつかしみ一夜寝にける」

山 部 赤 人